

「古代文化とその伝道者」講座計画表



第 1回(XX/XX/'XX) 歴史の伝道師と精神文化

第 2回(XX/XX/'XX) 鎌倉から江戸文化へ(精神文化から庶民文化へ)

第 3回(XX/XX/'XX) 日本の古代(倭)の文化

第 4回(XX/XX/'XX) 大和朝廷の誕生とその経緯

第 5回(XX/XX/'XX) 飛鳥・白鳳・天平文化

第 1回 歴史の伝道師と精神文化

- ・人間と文化の関係
- ・語り部が伝える物語の母系
- ・理性能は哲学を生み出した
- ・平安時代文化と伝道師

中心出典:「世界と日本の見方」(松岡正剛著、春秋社)
「日本の歴史 本当は何がすごいのか」(田中英道著 扶桑社)

講師 井上正和

I . 人間と文化の関係

1. 梅棹忠夫氏の「文明と文化」の定義

文化人類学者、「情報産業（農業⇒工業⇒次は？）」という言葉を作成

■文明：人間を取り巻く装置系と制度系そして人間が作るインフラ

①装置系とは発明された社会的インフラ。

機械、電気、デジタル、スマホ、鉄道、6G、Internet、お茶、笛、・・・

②装置系を運営・維持するルール、法律、しきみを指す

⇒ 足し算の生活文化

■文化：精神面における価値体系として現れるリフレクション

①文明から人が感じる価値（コト：楽しいこと、気持ちを穏やかにするもの）

鉄道一旅行、スマホ一対戦ゲーム、モバイル、お茶一茶の湯

つまり、価値体系という点に映し出されたもの（茶の湯、能、音楽、着物、懐石料理・・・等）

⇒精神化

②文化の問題はすべて文明の問題から派生

⇒引き算の生活文化

I . 人間と文化の関係

2. 文化の成り立ちと日本の文化の捉え方(松岡正剛氏より)

- ・文化はどのようにして成り立っているのか
- ・日本の文化はどのように作られたか

■人間と文化の関係

文化は人間の価値観との関係

■物語の母系

英雄伝説。受け入れられる編集(人間が記憶し継承するパターン)

■日本の物語と歴史編集: 古事記・日本書紀、国風文化

古事記: 712年、稗田阿礼一太安万侶。第33代推古天皇までの出来事記

日本書紀: 720年、舎人親王。第41代持統天皇までの天皇記

国風文化: 女房の文化(平安時代)

■日本とヨーロッパ文化の共通点: ルネサンスとバロック

* 人間としての共通点: 精神の発揚は何か。

* ヨーロッパのルネサンス、日本の文化の共通点は？

I . 人間と文化の関係

■関係性と文化

①文化と関係性の発見

- * 文化は関係性(どうその人が感じて伝えたか)の発見とどう伝えたか(語り部)でできていく。
- * 歴史は編集工学(人によって編集の仕方が異なる)＝関係の発見。人の想いと物語

②情報の区別力

- * 情報は区別することで見えてくる(編纂⇒編集)、聞き手で変わる。
- * 「ここではきものを脱いでください」、「いやよして」⇒どう認識し伝えるか、伝えたか

■プロクセミックス(文化感覚距離)

①距離で見え方が変わる

- * 西欧、地方との文化の違い(ラーメン)
- * 日本版ロックンロール: 平尾正晃、ミッキーカーチス、山下敬二郎

②距離で作法が変わる: 手を使っての数え方、ノック

米国: 指を広げながら、ワン、ツー、スリー。ノックは「コンコンコンコン」と5, 6回

Ⅱ．人間と文化の関係

■人間文化のスタート

①2足歩行: 手を使える、パララックス(並行視)

* なぜ、文化を感じるようになったのか？

四足は思考ができない。幼児は横の線が描けない。発情期をなくすことでコミュニケーションが。手を使えることで、道具、数をつかえる。

* 目の位置が変わって世の中を並行に、広く見れる。

②ネオニティ(幼形成熟): 受胎+長育児期間、3歳までの自己

* 未成熟で生まれる。自己形成開始3年後。インプリンティングを前提としている。

* 3歳までの自己: 記憶がないということは自分がないということ。

自己は他者を認知することで出来る: 自己認識

③インプリンティング(後天的な刷り込み): 考えることは刷り込み、他人や他者を介して成長

* 人間はインプリンティングで成長するように作られた⇒**個性の確立**

■感情の発散としての文化

・3つの脳: 「ワニの脳」、「ねずみの脳」、「人間の脳(理性脳)」

・理性脳の発達: 宗教、舞踊、哲学、建築、文芸

I. 人間と文化の関係

■感情の発散としての文化

①3つの脳:「ワニの脳」、「ねずみの脳」、「人間の脳(理性脳)」

参照資料1-1

- * ワニの脳は基礎的反射中枢の機能で「大脳基底核」と言われる
血圧, 心拍, 呼吸, 姿勢などの反射を司る。
- * ねずみ脳は「大脳辺縁系」が造られている
情動の表出、食欲、性欲、睡眠欲、意欲、などの本能を司る
- * 人の脳は理性を司る「脳皮質」が造られている
合理的で分析的な思考や、言語機能をつかさどる理性能である。

②理性脳の発達

- * 本能を抑えることで理性脳が発達、理性脳が本能の暴走を抑えることから文化が発達
宗教、舞踊、哲学、建築、文芸など。
- * 宗教が最初の文化史に出てくる
仏教での「煩惱を絶ちなさい」はここから。
⇒理性能は哲学を生むことになる。

Ⅱ. 語り部の伝える物語の母系

■神と英雄伝説

①物語:文化の創造は神の物語の継承から

* 神の物語⇒宗教

- ・ホメロスのイリアス、オデッセイアの叙事詩。
- ・日本では15000年前の縄文時代から「形」と「言葉」の継承

* 語り部

- ・紀元前800年ころから語り部:歴史の記憶の保存技術
- ・語り部は自己回路(自己組織化、自己編集化)を作った⇒英雄伝説

②英雄伝説の母系は一つ:神と宗教の物語から作られた

* 英雄伝説:英雄は必ず勝つ。

- * ジョセフキャンベル(アメリカの神話学者):英雄が神になる。記憶させるその伝え方がある。⇒「セパレーション(出発)」、「イニシエーション(冒険)」、「リターン」(帰還)

③一神教と多神教:神は生存環境で変わる

* 一神教:砂漠、キリスト教/イスラム教、「善」と「悪」の対比による2分法

- ・砂漠の風土(エジプト、シナイ半島、イスラエル)。生か死の2者択一。強いリーダーが一人。
- ・「神の予言」から神との約束事(宗教予言者)へ。
- ・ユダヤ教モーゼの「十戒」。善と悪の2分法

Ⅱ．語り部の伝える物語の母系

③一神教と多神教(つづき)

* 多神教: 森林の宗教、八百万の神、仏教(大乘仏教、小乗仏教)

- ・八百万の神: 森林では生き物の恵み、すべてに神が宿る。(精霊信仰: アミニズム)
- ・~~仏教~~: 大乘仏教は人を悟らせ自分が悟る仏教、小乗仏教は自分が悟り人を悟らせる仏

参照資料1-9

Ⅲ. 理性能は哲学を生み出した

■東洋とギリシャと東洋の哲学

①ギリシャ哲学:ソクラテス、プラトン、アリストテレス

参照資料1-2

人間が普遍的に共有する理屈を考えた⇒ロゴス(ロジック)

* **ソクラテス**: 人間との対話から「知と真理」が生まれるフィロソフィア
問答法により真理を見出す。

* **プラトン**は「理」で作られる人間社会(イデア)

- ・アレキサンダー大王の指導
- ・イデアに基づいたアレキサンドリアを16都市が発掘されている。

* **アリストテレス**は自然と思索に関する学の体系(自然学・形而上学)

- 形而上学:「形而上」というのは「形がない」もしくは「形を超えた」精神的なものを指すことになります。簡単に言うと「思考の中の世界」で哲学などは形而上学です。
- 形而下学:「形而下」とは「形があるもの。物質的なもの。感覚でとらえられる物質的な世界」のことを表します。物理学や数学、文学などは物理学になります。

Ⅲ. 理性能は哲学を生み出した

②東洋の哲学: 老荘思想、論語、儒教

* 老荘思想: 無為自然、いっさいの人間の営為〈偽〉を捨てて、天地自然の理にそのまま順(したが)った真の〈為〉を実現することを目指す。仏教思想と結合して〈莊子の学〉を生み、禅宗の成立に多大な影響を及ぼした。

参照資料1-3

* 論語: 「過ちては則ち 改むるに 憚ること勿れ」などという実践哲学であり、人間の関係性の中でいかに対処するかを述べたもの。孔子の弟子が編纂。

参照資料1-4

* 儒教: 五常の徳の仁、義、礼、智、信で表されるような人間の社会生活についての教義であり、儒教の理想は神でなく、聖人(人間)と言われる。孔子の教え。

参照資料1-5

IV. 平安時代の文化と伝道師

■ 平安時代の特徴とその背景

1. 平安時代の特徴

①日本で最も長く400年も続いた宮廷文化を伝えた時代⇒国風文化ができる。

* 遣唐使の廃止(894年:菅原道真)から国風文化へ

* 和歌による平等社会

・朝廷に対して夜の世界をつかさどるサロン(感性の文化創造の場所)が出来る

・和歌の上手下手が人間評価に直結

・勅撰による和歌集の編纂:身分関係なく要若が収録される。

・和歌の名手佐藤義清(さとうのりきよ、西行法師)と鳥羽上皇中宮璋子(たまこ)と恋仲に

②大宝律令が全国に普及

* 大宝律令が定着:二官八省、国・郡・里制の政治組織、班田収受の法

⇒国としての仕組みができ、安定した国家。⇒文化が花開く。

③最澄と空海による仏教の大転換

* 鎮護国家の宗教(奈良時代)から大乘仏教(人を救う)を体系化した世界へ

・天台宗(最澄):「顕戒論」を表し、大乘戒を説く。「出家者だけでなく、すべての人々を救済するのが仏教」と訴える

・真言宗(空海):真言とは、大日如来の真実の言葉という意味で、密教として伝えられた

参照資料1-6、7

IV. 平安時代の文化と伝道師

■ 平安文化の特徴

1. 女房の文化: 内裏に住む女性

①和歌: 漢字から万葉仮名、「かな文字」へ⇒漢文化と和文化の両立、そして世界最古の文学が生まれた。

・始めは「女手(おんなで)」といい、女性用文字(草書)

②清少納言「枕草子」、紫式部「源氏物語」

・文化面では宮廷内外の女性が男性を圧倒していた。

・漢詩にも男性顔負けの知識(白楽天の漢詩引用)

2. その他の文学作品と絵画

* 古今和歌集: 最初の勅撰和歌集。醍醐天皇による勅撰で紀貫之らが編者
紀貫之が書いた序文「やまと歌は、人の心を種として、よろずの言の葉とぞなれりける」

* 物語: 土佐日記、竹取物語、宇津保物語、落窪物語、伊勢物語など

読本参照

・紀貫之「土佐日記」: 「男もすなる日記というものゝ女もせむとて」

* 大和絵: 日本の山水や人物を題材とし絵巻物に

参照資料1-8

四大絵巻物: 源氏物語絵巻、鳥獣戯画、信貴山縁起絵巻、伴大納言絵巻など